

目の不自由さと小泉八雲 ー私たちが八雲にできることー



小泉八雲は、左目は失明、右目は強度近視という、今で言うなら「視覚障害者」。現代のようなロービジョンケア（見えにくさのケア）がない中にあっても、なお後世に残る文学作品を残した小泉八雲。これまで語られなかった一面を知り、今に生きる私たちへのヒントを探ります。

日時・場所

令和8（2026）年2月1日（日） 午前10時～12時（開場：9時30分）

松江市総合福祉センター 4階 大ホール

島根県松江市千鳥町70 / 駐車場はセンター東の砂利エリアです（看板あり）

内容

第一部 講演「視覚障害と小泉八雲」

講師：宮澤文雄 先生（島根大学法文学部）

島根大学法文学部准教授。専門分野はアメリカ文学。東日本大震災とラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の文学のつながりについて研究する。また、ハーンや西田千太郎などの地域の偉人の顕彰にも取り組む。八雲会会員。一般社団法人まちなかプラン理事。



第二部 パネルディスカッション 「現代に小泉八雲がいたら私たちにできること」

「見えにくさのケア＝ロービジョンケア」は、明治時代よりはるかに進んでいます。もし現代に小泉八雲がいたら、どのようなケアが可能かを、島根県内で視覚障害者のサポートに関わる医療や福祉などの専門家が紹介。同時に当時そのケアがあれば、小泉八雲の人生や執筆にどう影響したかを探る「仮想事例検討会」です。

その他

- ・ 手話通訳・要約筆記をご希望の場合は、1月9日（金）までに、下記問い合わせ先まで、ご連絡ください。

参加費無料
どなたでも
参加できます
（申込不要）

お問合せ

社会福祉法人 島根ライトハウス ライトハウ斯拉イブラリー（担当：庄司・伊藤・山根）
電話：0852-24-8169 メール：reha@lighthouse-lib.jp

島根ビジョンネットワーク 🔍

※このチラシの文字には、出来るだけ多くの方が読みやすくなるよう「UD フォント」を用いています。